線の迷宮〈ラビリンス〉Ⅲ

齋藤芽生とフローラの神殿

2019 年 10 月 12 日(土) ～ 12 月 1 日(日)
目黒区美術館

開館時間：午前 10 時～午後 6 時 (入館は午後 5 時 30 分まで)
休 館 日：毎週月曜日 (ただし 10 月 14 日と 11 月 4 日は開館)、
10 月 15 日(火)、11 月 5 日(火)
観 覧 料：一般 800(600)円、高大生・65 歳以上 600(500)円、中学生以下無料
＊( )内は 20 名以上の団体料金　＊障がいのある方とその付添者 1 名は無料
＊目黒区在住・在勤・在学の方は受付での証明書類のご提示で団体料金になります
主　　催：(公財)目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館
協　　力：ギャラリー・アートアンリミテッド、町田市立国際版画美術館

❶ 齋藤芽生《徒花図鑑「間男蔓」》
2008 年　個人蔵

展覧会概要

目黒区美術館では、これまで「線の迷宮〈ラビリンス〉」と題し、線の魅力と可能性に迫る企画を、「細密版画の魅力」展(2002 年)、「鉛筆と黒鉛の旋律」展(2007 年)とシリーズで展開し、好評を得てきました。第 3 回目となる本展では、過去と現代のはざまを独自の視点で捉える画家 齋藤芽生の絵画世界と、19 世紀 植物図鑑の名作《**フローラの神殿**》を紹介します。

「美術と文学の間で揺れ動いていた若い私にとって、博物学への興味は新鮮なビジョンをもたらした。一枚で独立した絵画ではなく、言葉と複数の絵からなる博物図鑑として、ものごとの体系を表現するアイディアを得たのだ。観察対象は外界の自然物ではなく、「表立って語られることのないひそやかな人生の縮図」だった。」

このように作家が語る、制作初期の《**毒花図鑑**》や《**日本花色考**》には、花に託された思春期の心理が、図鑑のかたちで表現されています。やがて花のモチーフから離れ、箱型の団地の窓を扱う一連のシリーズが始動。自らが幼少期を過ごした団地の記憶を元に描いた《**晒野団地四畳半詣**》では、窓枠の奥に人々の気配が描かれます。そしてその後、窓のうちの居住者へ向けられていた作家の観察眼は、外へと向かいます。図鑑や窓といった形式から脱し、日本各地への旅を重ねながらイメージを収集した現実の記録と過去の記憶がモチーフとなった《**密愛村Ⅲ・Ⅳ**》や《**野火賊**》。ここでは、ロードムービーの一場面をみるかのように、今も街道沿いに遍在する歓楽施設の跡地などが再構築されています。

同時に、学生時代の作家にも刺激を与えたという植物図鑑《**フローラの神殿**》を展覧します。本作には、28 種の花々の堂々たる姿が描かれるとともに、他に類を見ない詩的な背景描写がなされ、19 世紀における世界へのまなざしを見て取ることができます。

本展は、齋藤芽生作品と、植物図鑑の至宝《**フローラの神殿**》(19 世紀)を同時に展覧し、「図鑑」のように複数の絵画と言葉で社会を描く現代作家 の魅力に迫ります。

展覧会構成

●齋藤芽生（さいとうめお）／約100点

1 花の迷宮

第 1 章は、大学 2 年時の作品《**毒花図鑑**》(1993 年)、そして大学 4 年時の卒業制作以来、初の展示となる《**日本花色考**》(1995 年)及び、これらの作品群を展開させた《**徒花（あだばな）図鑑**》(2008 年)で構成します。ものごとを細やかに観察し、そして系統だてて分類する図鑑形式を取りながら、花に託して描かれているのは、繊細な人間の心のニュアンスです。ここには、観るものが思わず、我が身を振り返るような鋭さがあります。

❷ 齋藤芽生《徒花図鑑「斜陽葵」》
2008 年　個人蔵

2 窓の光景

第 2 章では、団地をテーマにしたシリーズから、《**晒野団地四畳半詣**》(2006 年) 他を展覧します。画一的な窓枠の奥に潜む人々の気配を描き出す作品は、かつて子ども時代を過ごした都市郊外の団地の記憶と、後にその故郷を再訪した経験をもとに描かれています。対象を深いまなざしで捉えた本作は、人の営みの図鑑ということができるでしょう。同時に、この団地の窓のモチーフは、はじまりを幼少期にまで遡る、作家自身の表現の原点でもあります。

❸ 齋藤芽生
《晒野団地四畳半詣「緋装束花嫁巡礼」》
2006 年　個人蔵

3 旅をする魂

前章までの図鑑や団地の窓など、型を反復するモチーフから離れ、作家が積極的に始めたのは、旅の光景の収集でした。第 3 章では、近作《**密愛村Ⅲ・Ⅳ**》(2011・16 年)、《**獣道八十八号線**》(2011 年)、《**野火賊**》(2015 年)、《**暗虹（あんこう）街道**》(2018 年) を紹介します。日本人のマイホームやレジャーへの憧憬の産物が、廃棄できない「時代の遺物」と化していく光景を捉えた作品には、現代に投げかける、作家独自の視点を見ることができます。

❹ 齋藤芽生
《密愛村Ⅲ「密輸される乙女たち」》
2011 年　個人蔵

●フローラの神殿／30点

19 世紀の植物図鑑の名作《**フローラの神殿**》(1798-1807 年刊行) は、博物学者 リンネが始めた雄しべと雌しべによる植物分類法に感銘を受けた、ロバート・ジョン・ソーントンにより編集されました。学生時代の齋藤芽生にも刺激を与えたという本作には、28 種の花々の、堂々たる姿が描かれています。同時に、背景が無地となることの多い植物図鑑には珍しく、急峻な山岳や渓谷、古城など、趣向を凝らした世界各地の風景が描写されており、当時の世界に対するまなざしを見て取ることができます。

❺ R.J. ソーントン編、ライナグル画 スタドラー版刻
《フローラの神殿「ベニゴウカン」》1799 年
町田市立国際版画美術館蔵

作家略歴・作品紹介

●齋藤芽生（さいとう めお）

1973 年東京都生まれ。現在東京在住、東京藝術大学准教授。おもな展覧会に、「VOCA 展 現代美術の新しい地平―新しい平面の作家たち」（上野の森美術館、2005・2010 年）、「アーティストファイル 2009―現代の作家たち」（国立新美術館、2009 年）、「祝祭と祈りのテキスタイル」（熊本市現代美術館、2010 年）、「大原美術館 秋の有隣荘特別公開　齋藤芽生 密愛村」（大原美術館、2016 年）他がある。また、おもな出版物に、作品集『徒花図鑑』（芸術新聞社、2011 年）、『四畳半みくじ』（芸術新聞社、2014 年）、絵本『吸血鬼のおはなし』（福音館書店、2009 年）、絵本『カステラ、カステラ』（福音館書店、2013 年）などがある。

●《フローラの神殿》

1798-1807 年刊行の植物図鑑である。編者 ロバート・ジョン・ソーントンは、博物学者 カール・フォン・リンネの雄しべと雌しべによって植物を分類する方法に感銘をうけ、本書の刊行を決意した。植物図鑑は無地の背景に草花を描くことが一般的だが、ソーントンは花々にそれぞれ趣向をこらした背景を与え、類例の無いものを編み出した。例えば「夜の女王」では、後方に描かれた時計台や月からその開花時刻をうかがい知ることができる。このように詩的で物語を感じさせる背景が《フローラの神殿》の魅力である。

❻ 齋藤芽生
《晒野団地四畳半詣「姥捨小町鉄の浮橋」》
2006 年　個人蔵

❼ 齋藤芽生
《密愛村Ⅳ「蝉時雨を売る少女」》
2016 年　個人蔵

❽ R. J. ソーントン編、ライナグル（花）とペザー（風景）画 ダンカートン版刻
《フローラの神殿「夜の女王」》
1800 年　町田市立国際版画美術館蔵

❶ - ❹、❻、❼ Photo ©Ken Kato Courtesy of gallery Art Unlimited

関連イベント

【対談】（事前申込制）
2019 年 10 月 19 日（土）14:00 ～ 15:30
話し手：山下裕二（明治学院大学教授）× 齋藤芽生（本展出品作家）

【ミュージアムコンサート】（事前申込制）
2019 年 11 月 3 日（日・祝）15:00 開演（予定）
出演：mama!milk（生駒祐子（アコーディオン）・清水恒輔（コントラバス））

【大人のための美術カフェ 】（当日先着順）
2019 年 11 月 24 日（日）14:00 ～ 15:00
ナビゲーター：本展担当学芸員

＊いずれも会場は目黒区美術館。申込方法のほか、プログラム内容等の詳細につきましては、当館ウェブサイトにてご確認ください。

開催情報

タイトル	**線の迷宮〈ラビリンス〉Ⅲ** 齋藤芽生（さいとうめお）とフローラの神殿
会　　期	2019 年 10 月 12 日(土) ～ 12 月 1 日(日)
会　　場	目黒区美術館（東京都目黒区目黒 2-4-36）
開館時間	午前 10 時～午後 6 時（入館は午後 5 時 30 分まで）
休 館 日	毎週月曜日(ただし 10 月 14 日と 11 月 4 日は開館)、10 月 15 日(火)、11 月 5 日(火)
観 覧 料	一般 800 (600) 円、高大生・65 歳以上 600 (500) 円、中学生以下 無料 ＊( )内は 20 名以上の団体料金　＊障がいのある方とその付添者 1 名は無料 ＊目黒区在住・在勤・在学の方は受付で証明書類のご提示で団体料金になります
主　　催	（公財）目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館
協　　力	ギャラリー・アートアンリミテッド、町田市立国際版画美術館
交通機関	JR山手線・東急目黒線・東京メトロ南北線・都営三田線「目黒」駅(西口)から徒歩10 分 東急東横線・東京メトロ日比谷線「中目黒」駅から徒歩20 分 東急バス「権之助坂」(目黒通り)下車徒歩5 分、「田道小学校入口」(山手通り)下車徒歩3 分

広報写真

本リリース掲載の図版画像を本展広報用写真としてご提供いたします。図版の左下 ① ～ ⑧ が図版番号です。
ご希望の方は、申込用紙（5 ページ目）の内容をご確認の上、必要事項をお書き添えいただき、FAX でお申し込みいただくか、

本展の問合わせ先

目黒区美術館　展覧会担当：加藤 / 広報担当：丸
〒153-0063 東京都目黒区目黒 2-4-36　tel. 03-3714-1201(代)　fax. 03-3715-9328
e-mail: mmatoffice@mmat.jp　　https://www.mmat.jp

宛先：目黒区美術館　　〔担当〕 丸・加藤　宛て
FAX ：03-3715-9328　　E-mail：mmatoffice@mmat.jp

■ 本票に必要事項をご記入のうえ、上記宛先まで FAX でお申し込みいただくか、メールにて本票と同内容の事項とご希望の画像番号をお知らせ下さい。掲載紙・誌を 1 部ご寄贈くださいますようお願い申し上げます。

お申し込み日	年　月　日		
御 社 名			
ご担当者氏名			
住　所	〒		
TEL		FAX	
E-mail			
掲示媒体名 （雑誌名など）			
メディアの形態	【紙媒体】 新聞 ／ 雑誌 ／ ミニコミ誌 ／フリーペーパー ／ その他 （　　） 【電子媒体】 テレビ ／ ラジオ ／ WEB サイト ／ 携帯サイト ／ その他（　　）		
発行・放送予定日	年　月　日		
ご希望の画像	図版番号 ① 〜 ⑧ のご希望の図版番号をご記入ください	使用条件等 ＊写真画像への文字載せは不可です。 ＊写真の画像加工（トリミング・色調整など）は不可。但し、モノクロで使用の場合は、コントラスト、ガンマ値の適宜調整を許可する場合があります。 ＊キャプションは必ず明記してください。 ＊①〜④、⑥⑦ には、Photo ©Ken Kato Courtesy of gallery Art Unlimited も明記してください。	
連 絡 欄			

■ お申し込み受け付け後、画像データ（JPEG）のダウンロード先を返信でお知らせいたします。
お手元の環境等によりダウンロードできない場合は別途ご連絡ください。

■ 使用にあたっては、【広報用画像について】の内容をご了承いただくことが条件となります。
必ずご確認いただきますようお願いします。

【広報用画像について】

・画像データはメールにて送付いたします。
・画像は展覧会紹介の目的のみにご使用ください。
・データを第三者に渡すことは禁止いたします。
・使用後、データは破棄してください。
・展覧会の名称、期間、会場などの情報は分かりやすく掲載してください。
・画像への文字載せは不可です。
・画像使用の際は、キャプション、クレジットを明記してください。
・掲載誌（紙）は 1 部、当館担当者までお送りください。
・Web サイトは公開後に URL をお知らせください。
・当館が掲載内容を確認できるように、掲載前に校正をお送りください。

◎ 本展を紹介してくださる媒体には、展覧会の招待券（5 組 10 名様）を読者プレゼント用に提供いたします。
ご希望の方は下記にご記入ください。
読者プレゼント用招待券を［ 希望する ・ しない ］

＜広報用画像に関する問い合わせ先＞
目黒区美術館
TEL.03-3714-1201 / FAX.03-3715-9328
展覧会担当（学芸）：加藤
広報担当（事務）　：丸